

# 認知症学び理解深める

## 中西郷中・島三

認知症を正しく理解し、当事者や家族を支える「認知症サポーター」の養成に力を入れている三島市は13日、市内の学校では初開催となるサポーター養成出前講座を市立中西郷中で行った。3年生125人が受講し、施設職員の講話やグループワークを通じて、認知症への理解を深めた。

講師は、認知症の高齢者などを分かりやすく生徒に支援するグループホームを説明した。グループワークの職員4人。認知症の症状では、家族が認知症になったり行動といった基礎知識をたと思われれるときの対応のはじめ、接する時の心構え 仕方などを話し合った。



グループワークで認知症への理解を深める生徒ら  
＝三島市立中西郷中

## 初で市内の学校 認知症サポーター養成出前講座

グループホームひかり（同市徳倉）職員の北見呂衣さん（36）は自らの経験を振り返り、「介護で一番大事なのは技術や知識ではなく気持ち。優しい気持ちを持って困っている人に気付いたり、声を掛けたりしてください」と呼び掛けた。

受講した小林成実さん（3年）は「知らなかったことを分かりやすく教えてもらった。家族が認知症になったとき、今日の話役立てたい」と話した。

市は2004年から自治会や民生委員、事業所などを対象に出前講座を開催してきたが、学校では初めて。国が15年に策定した新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）で「学校教育における認知症高齢者の理解の推進」が挙げられたことを受け、若年層にも理解を深めてもらうと同校と連携し実施を決めた。